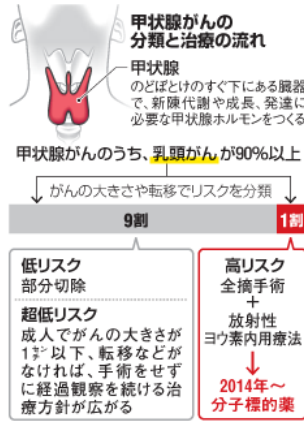


甲状腺がん 増える治療法

ここ5年で甲状腺がんの治療が大きく変わっている。がんを狙い撃ちする「分子標的薬」の登場で、これまで治療法がなかった患者でも助かる人が出てきている。検査法の発達で患者は急増しているが、がんが小さく「超低リスク」の場合には、手術をしない選択肢も広がってきた。



甲状腺はのどぼとけの下にあり、代謝に関わるホルモンを出している重要な臓器だ。甲状腺がんは乳頭がんが9割を占める「乳頭がん」というタイプがほとんどで、甲状腺を半分切った。7年後、再発した。乳頭がんの中でもまれにあるリスクの高いタイプだった。呼吸が苦しく、声も出にくくなった。肺に転移していた。

半分残っていた甲状腺をとり、「放射性ヨウ素内用療法」も試した。ヨウ素を取り込んだホルモンの性質を利用して、転移したがん細胞に放射性ヨウ素を取り込ませ、放射線力でがんを死滅させる。ただ、女性はこの治療が効かず14年に悪化。国立がん研究センター東病院(千葉県柏市)に転院した。以前は放射性ヨウ素による治療がなかったが、14年から15年に治療のない患者を対象にした分子標的薬が相次いで承認された。女性はその一つ「レンパチニブ」をのみ始めた。

このどの腫れが大きく鏡を見ても嫌だったが、1週間で腫れが治まった。「呼吸も薬にならなくなった。信じられなかった。」

分子標的薬で症状改善に効果

Q 首下がり症候群とは、
A 首が曲がって頭が過度に垂れ下がる症状を指します。頭を上げるための首周りの筋肉が萎縮して動かさなくなり、上を向くことができません。ひどい場合は、首が重く、だるさを感じるようになって、病院を受診すると、首下がり症候群と言われます。日常生活を送りづらくなります。病院で両肩に電気を流したり、温湿布を貼っても治りませんが、何か他によいリハビリはありませんか。(愛知県・S)

Q 首下がり症候群とは、
A 首が曲がって頭が過度に垂れ下がる症状を指します。頭を上げるための首周りの筋肉が萎縮して動かさなくなり、上を向くことができません。ひどい場合は、首が重く、だるさを感じるようになって、病院を受診すると、首下がり症候群と言われます。日常生活を送りづらくなります。病院で両肩に電気を流したり、温湿布を貼っても治りませんが、何か他によいリハビリはありませんか。(愛知県・S)

首下がり症候群 どう改善

70代女性。首が重く、だるさを感じるようになって、病院を受診すると、首下がり症候群と言われます。日常生活を送りづらくなります。病院で両肩に電気を流したり、温湿布を貼っても治りませんが、何か他によいリハビリはありませんか。(愛知県・S)

答える人



石井 賢さん
国際医療福祉大学三田病院
主幹教授(整形外科) 東京都港区

Q 原因は、
A 昔からある症状ですが、実はほとんどの場合が原因不明です。加齢が一因とされるため、高齢化社会になった最近になって名前が認知され始めました。ほかに神経線維のパーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症(ALS)などと併発したり、うつ病が関係したりするものもあります。

Q 昔からある症状ですが、実はほとんどの場合が原因不明です。加齢が一因とされるため、高齢化社会になった最近になって名前が認知され始めました。ほかに神経線維のパーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症(ALS)などと併発したり、うつ病が関係したりするものもあります。

Q どう治療すれば。
A 関係する病気がある場合は、まずその病気を治療します。原因が不明な場合は、リハビリで改善させるか、手術で首の後ろからインプラントと呼ばれる首の固定器具を打ち込みます。首

Q 自分でできることは、
A 首周りの筋肉をほぐすことが大事です。自宅でできるものだと、座った状態で首を上げたり下げたりします。難しくは、首を伸ばすだけです。首を伸ばすときは、首の前を向くように首をマフラーのように首に巻いて、首の前を向くように慣らすのもよいです。首周りを温めてほぐすことも効果があります。専門のリハビリを受けられる医療機関もあるので、医師に相談してみましよう。

超低リスクなら経過観察も

甲状腺がんの患者は超音波検査の発達で増えている。学協会がまとめたガイドラインによると、03年に全国で約8千人だった甲状腺がんの新規の推定患者数は、13年に約1万5千人にまで急増した。増えた患者の多くは、がんの大きさが1センチ以下で他の組織への転移や浸潤がない「超低リスク」の患者がほとんど。

超低リスクの甲状腺がんは、時間が経ってもほとんど大きくなり、亡くなるケースが知られていないとされ、成人患者の半数は手術をせず、経過観察だけで経過する方法を選んでいる。

甲状腺を取るとホルモンを

「牛」の字を使おう。ゴボウは「牛」の字に似ている大きな植物なので、「牛蒡」になったそうですよ。

中国では、草木の大きなものを表すときに「牛」の字を使う。ゴボウは「牛」の字に似ている大きな植物なので、「牛蒡」になったそうですよ。

3837

痛風 新型コロナで死亡リスク増

痛風や尿酸血症の人は新型コロナウイルスに感染すると死亡リスクが高まる。そんな研究結果を、慶応大病院などのチームが市中感染した国内の入院患者を分析し、国際医学誌に発表した。

慶大病院と東京近郊の13の関連病院で2月から6月19日に受け入れた新型コロナの全患者345人について、入院後の重症化や死亡が基礎疾患と関係あるのかなどを調べた。

慶大など研究チーム

患者の年齢の中央値は54歳。基礎疾患別では多い順に高血圧が28人と続いた。これらの分類をもとに、他の基礎疾患の有無や性別といった条件を除くなどして統計学的に処理したところ、従来の研究で死亡リスクが高いとされていた「高齢」や「慢性腎臓病」だけでなく、痛風や尿酸血症も高リスクであることがわかったという。

新型コロナに感染すると、過剰な免疫反応で多臓器に炎症が起き、亡くなるケースが知られている。痛風や尿酸血症の人はもとも体内の炎症反応が強まりやすく、糖尿病になると死亡リスクが高いことも知られているという。チームは、新型コロナに感染することで炎症が増幅され、死亡リスクが高まる可能性を指摘する。

慶応大の石井誠准教授(呼吸器内科)は「痛風や尿酸血症の人はよりリスクがあると考え、感染に注意してほしい」と話す。

(三上元)